

15、  
光寿二無量

南無阿弥陀仏の名号は 光明無量、壽命無量。光明無量とは、第十二の願には

「設我得仏 光明有能限量 下至百千億那由他諸仏国者 不取正覚」、第十三の願には

「設我得仏 壽命有能限量 下至百千億那由他劫者 不取正覚」と、小経には「舍利

弗 彼仏光明無量 照十方国無所障碍 是故号为阿弥陀 又舍利弗 彼仏壽命 及其人

民無量無辺阿僧祇劫故名阿弥陀」と仰せられて 光明無量は横に照らして果てしな

く普遍の徳が有り空間的無辺であり、十方を照らして一切の有情を調熟し撰取する作

用があり、壽命無量は 縦に貫いて究まりがなく、常住の徳があり、時間的無限であ

り、三世を貫く寿体に歸して同体の証を得しむる作用がある。

我々は光明のお育てによつて壽命無量の体に歸するのであり、煩惱に狂わされて仏

とも法ほうとも知らしなかつた者ものが、何時いつとはなしに宗教しゅうきょうに向むき、有難ありがたいくと 死後しごの証ざとりをながめていた者ものが、本ほん当とうに仏ほとけの智慧ちえと慈悲じひとを諦得たいとくしたかと切詰きりつめられた時とき、話はなしは判わかつたが実地じつちが得えられていない、本ほん当とうに苦く抜ぬけが出来できれば明あきらかなれるのだ。光明こうみやうとは一切いっさいを照てらす智慧ちえであり、寿じゆ命みょうとは一切いっさいを生いかす慈悲じひであるから 仏智ぶつちが届とどけば愚痴ぐちがなくなり、慈悲じひが届とどけば不安ふあんがなくなるのである。

明あきらかな智慧ちえによつて明めい朗ろうな生活せいかつとなり、深ふかい慈悲じひによつて満まん足ぞくな生活せいかつとなる。明めい朗ろうなであるから感かん謝しゃとなり、満まん足ぞくしてゐる事ことが法悦ほうえつのお陰かげである。光こう明みやう無む量りやうとは果はてしなき智慧ちえであるから何どこ処こでも救すくうと言いふことであり、寿じゆ命みょう無む量りやうとは限かぎりなき慈悲じひであるから 何時いつでも助たすけると言いふことである。して見みれば今いまここで助たすかり救すくわれると言いふことは念ねん仏ぶつすることである。念ねん仏ぶつとは 今いまの心こころは人ひとに非あらずと書かいてあるので、真まに仏智ぶつちが満まん入にゅうすれば身みも心こころも南無阿弥陀仏なむあみだぶつとなり、順じゆん境きやうに向むかえば仏祖ぶつその念力ねんりきを仰あおぎ、逆境ぎやくきやうに向むかえば蒔まいた種たねの恥はずかしさよと機きの懺悔ざんげとなるのである。